

(日本災害情報学会・デジタル放送研究会'2)

「KBS(韓国放送公社)の災難放送現況について」

報告者:大西 勝也

はじめに

2008年3月13日～15日の3日間、日本災害情報学会の中に設けられた「デジタル放送研究会」メンバーが、「韓国の放送・通信が災害時にどのような災害情報を一般市民に提供しているか、その現状と課題を視察する目的」で韓国を訪れた。本稿は、3月14日午後、KBS(韓国放送公社)本社での説明会の内容を中心に報告する。(報告は通訳を通して行われた。ここにまとめた資料は、韓国のハングルで書かれ、一部英語を交えている。この全文は、帰国後にご本人から送られてきた資料である。参考資料として本文を後につけて紹介する)。

韓国内の放送は、地上テレビは公共放送のKBS(Korean Broadcasting System、韓国放送公社)とEBS(Educational Broadcasting System、教育放送公社)、それに公共放送の立場もあわせもつ商業放送MBC(Munhwa Broadcasting System、文化放送)が全国放送を実施している。地域放送を実施している商業放送は10局あり、そのうちSBS(Seoul Broadcasting Systemの略)は他の地域局とネットワークを組んでほぼ全国をカバーしている。また、地上デジタルテレビは、固定テレビ向けは2001年末から、KBSとEBS、MBCとSBSの4局が本放送を実施している。一方、衛星放送は、デジタル衛星放送の商業プラットフォームKDB(Korea Digital Satellite Broadcasting、韓国デジタル衛星放送、呼称 Sky Life)が2002年3月から本放送を実施している。さらに、2010年为目标となっていたアナログ放送の終了は、2年延期されて2012年となっている。(註1:『NHKデータブック 世界の放送 2008』)

90年代後半から2000年にかけてケーブルテレビ・衛星放送・インターネットの普及が進む中で、KBS・MBC・SBSの放送局は、従来とは違ったニューメディア対応を迫られている。その一つが、「T-DMB(=Terrestrial Digital Multimedia Broadcast)ーワンセグ放送」である。T-DMB自体は2005年から、テレビ2チャンネルで、内容は地上波とは異なる独自編成をおこなっている。T-DMBは可搬性、双方向性、マルチメディアと連携している。

T-DMBによる災害放送はまだ行っていないが、その準備を行っている段階である。ここに紹介するKBS放送技術研究所のクォン テボク氏の講演資料は、KBSの災害放送の現況を説明している。

第 I 部「KBS 災難放送現況」の説明

(1)「KBS (韓国放送公社) 地上波 DMB 災難放送」

(韓国では「自然災害・人的災害も含めて“災難”と呼称しているため、そのまま使用する。番号は、KBS 放送技術研究所技術局長 クォン・テボク氏の説明順を表示している。)

(2) 目次

- 災難放送の必要性
- 国内災難放送の現況
- T-DMB の特性
- T-DMB 災難放送推進現況
- T-DMB 放送災難標準内容
- サービス シナリオ 例
- 送受信整合 テスト
- 今後の日程

(3) 災難放送の必要性

- ◆ 災難復旧とともに効果的な予報システムを構築し、今後、類似した事態の発生時に被害を最小化することが緊急である。
- ◆ 広範囲の地域で効果的に災難警報を伝達し、被害状況を迅速に把握し、即時的な救助活動が可能であるよう災難放送システムを構築することが必要である。
- ◆ 移動通信は、同時に不特定多数を対象として、災難警報を伝達する場合、データ伝送量の限界のために同時性確保が困難である。

(4) 国内災難放送の現況

◆ 国内アナログ災難放送

□ TV 自動警報放送

- ・ 1999 年：標準化作業開始および完了
- ・ 2001 年：標準案確定
- ・ 2002 年：示範 (模範的) 事業 実施
 - ・ KBS の送信システム設置
 - ・ 受送機 4,000 台設置

□ ラジオ自動警報放送

- ・ 1999 年：標準化作業開始および完了
- ・ 2001 年：標準案 確定
- ・ 2003 年：示範 (模範的) 事業 実施
 - ・ KBS の送信システム設置：(チュンチョン<春川>、ヨス<麗水>、チャンウォン<昌原>、アンドン<安東>、プサン<釜山>)
 - ・ 受信機 100 台設置 (室内用：50 台、室外用：50 台)



(クォン・テボク氏説明)：KBS の災難放送についての現状ですが、大きく分けて、①テレビ自動警報放送 ②ラジオ自動警報放送 があります。このうちテレビ自動警報放送は、アメリカを見習い 2005 年からテスト事業を行った。ラジオの自動警報放送はヨーロッパの R-DMB 方式を見習ったもので、テスト試行はテレビより 1 年遅れて 2003 年に行った。その際、KBS に送信装置を設置して行った。

(5) T-DMB の特性 (Terrestrial Digital Multimedia Broadcast)

- ◆ 2005 年 9 月に、T-DMB (Terrestrial Digital Multimedia Broadcast) が公認された。

- ◆いつ、どこでも高速で移動中でもCD品質のオーディオ、移動TVなど多様な放送受信が可能。
- ◆車両用端末機と携帯電話、ノートパソコン、PDAなど多様な携帯用端末機に結合が可能。
- ◆無線通信網に連動でき、両方向（双方向）マルチメディア サービスが可能。
- ◆交通/旅行/天気/ニュース/情報/インターネット接続/災難放送など多様な付加サービスが可能。

(6) T-DMBの特性災難放送推進現況（1）

- ◆TTA DMB 災難放送 実務班構成
 - 標準化開発
 - 消防防災庁、ETRI、KBS、SBS、LG、サムソンなど（2005.06.03）
- ◆DMB災難放送 標準 公告
 - 地上波 DMB 災難警報放送：TTAS. KO-07. 0046 （2006.12.27）
- ◆地上波DMB災難警報放送 Ad-hoc 構成
 - 標準検証および既存受信機正常動作有無確認
 - KBS、SBS、LG、サムソン など（2007.01.24）

(7) T-DMB災難放送推進現況（2）

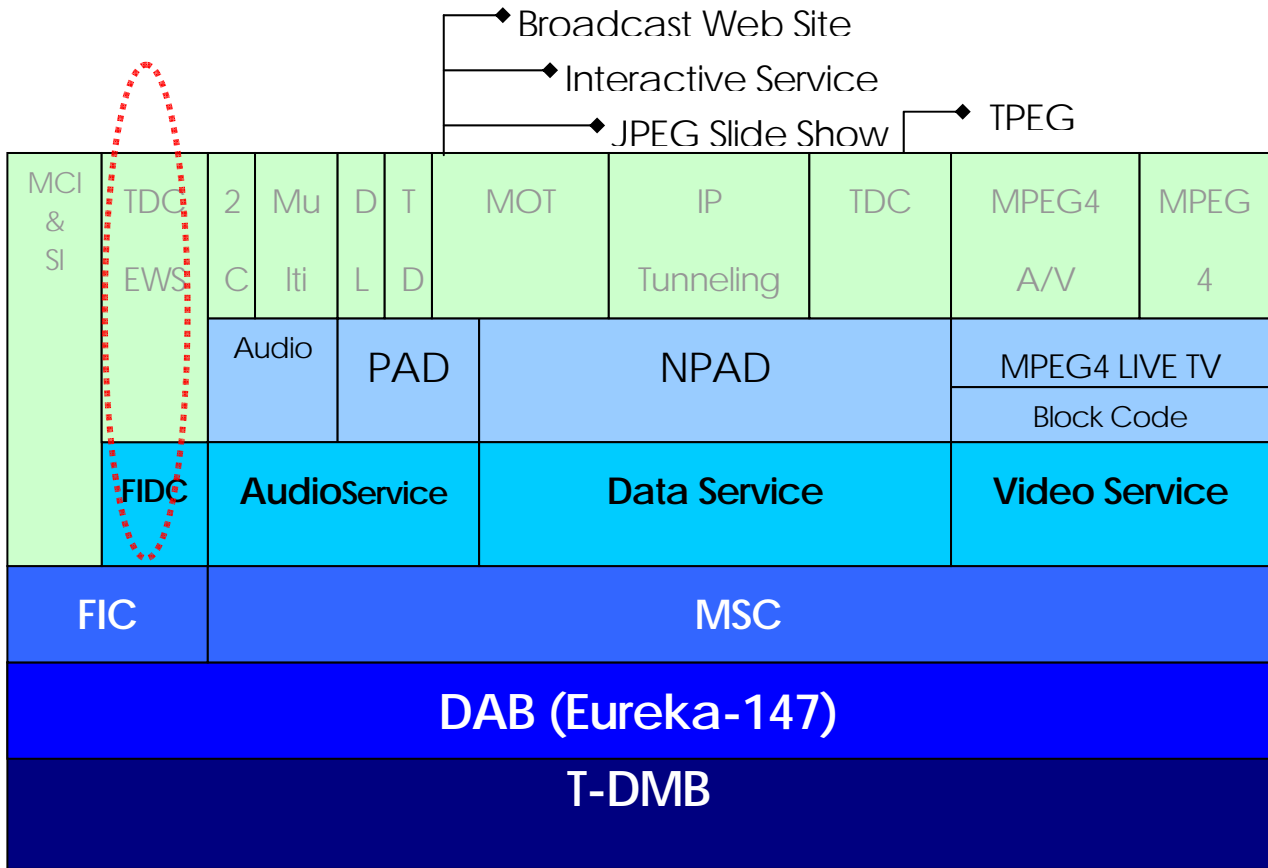
- ◆DMB災難放送標準 補完
 - 地上波 DMB 災難警報放送 標準 改正
TTAS. KO-07.0046/R1（2007.12.26）
 - 地上波 DMB 災難警報放送 受信機 標準的合成 テスト 標準：
TTAS. KO-07.0055（2007.12.26）
- ◆T-DMB災難警報放送 伝達体系 構築 T/F チーム（2007.12.28）
 - 班長：イ・ヨン教授（ソナムン大学校）
 - 幹事：消防防災庁 放災対策チーム長
 - 総括班（消防防災庁）、制度改善班（放送通信委員会）
 - T-DMB 災難報放送 示範（模範）サービス：2008.8.10～2009.12

(8) T-DMB 災難放送標準 内容（1）

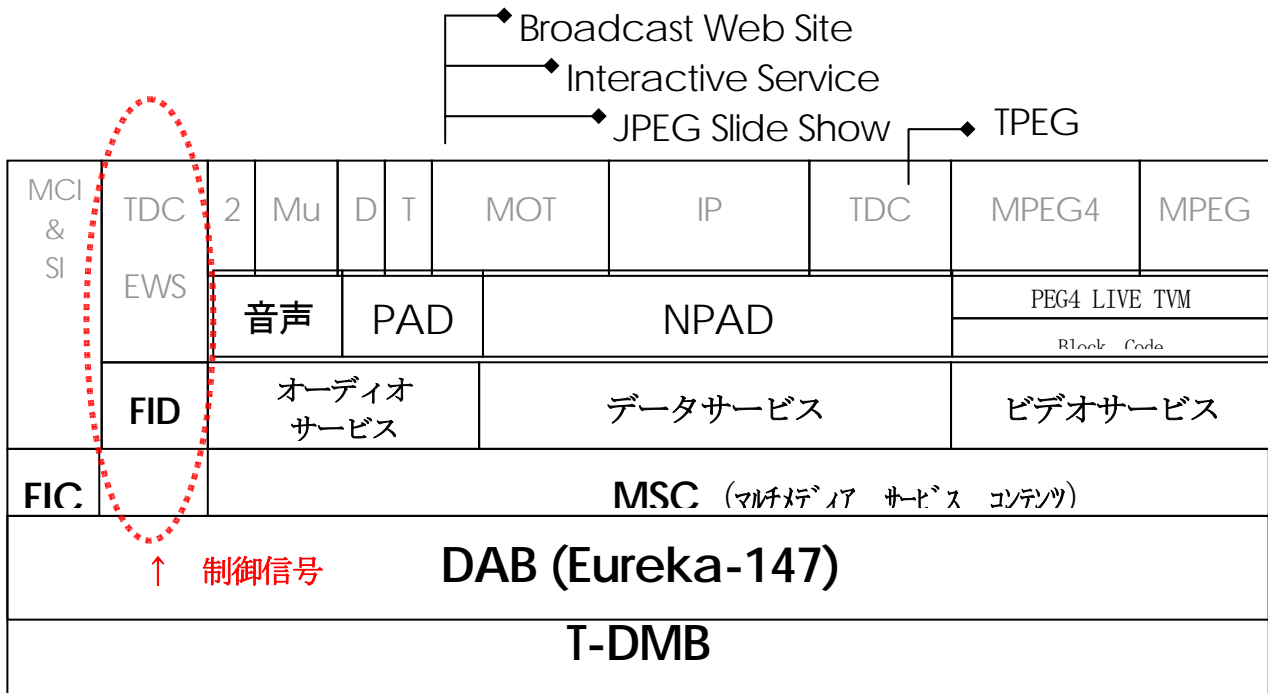
- ◆サービス 要求事項
 - ①他の付加サービスに比べて優先、迅速に送出／受信できるようにする。
 - ②文字を基本としてオーディオ、停止画像、動映像、データなどは、地上波DMBのサブチャンネルを利用して転送するようにする。
 - ③“災難警報発生地域 情報”転送のために地域コードを使用する。
 - ④サービス地域は全国、地域単位で、分割可能にする。
 - ⑤アンサンブル事業者は、同時に2つ以上の災難類型転送を可能にする。
 - ⑥すべてのDMBアンサンブル事業者は、該当放送区域内の災難放送信号を必ず送出する。
 - ⑦災難情報は、災害発令機関から地上波DMB網を通して自動で送出できるようにする。
 - ⑧受信機は該当受信地域コードを識別、入力した受信地域コード変更を容易にするようにする。
 - ⑨専用受信機は、災難放送送出の可否を常に監視、即時的な対応を可能にする。
 - ⑩災難放送受信機は、専用受信機と一般受信機とに区分する。
 - ⑪災難放送発生時、受信機の音響のボリュームを自動調節が可能にする。
 - ⑫使用者が災難放送認知後、受信機の音響は移転状態に転換する。
 - ⑬受信機に災難放送時間、持続時間を表示できるようにする。（受信機に災難発令時間を表示できるようにする）
 - ⑭受信機に 災難放送テストデータ受信時テスト中であることを表示できるようにする。
 - ⑮警報類型に対応した 特徴メッセージアラームを可能にする。（例：地震、津波 など）。

(9) T-DMB 災難放送 標準 内容 (2)

◆転送 階層 構造 (階層図)

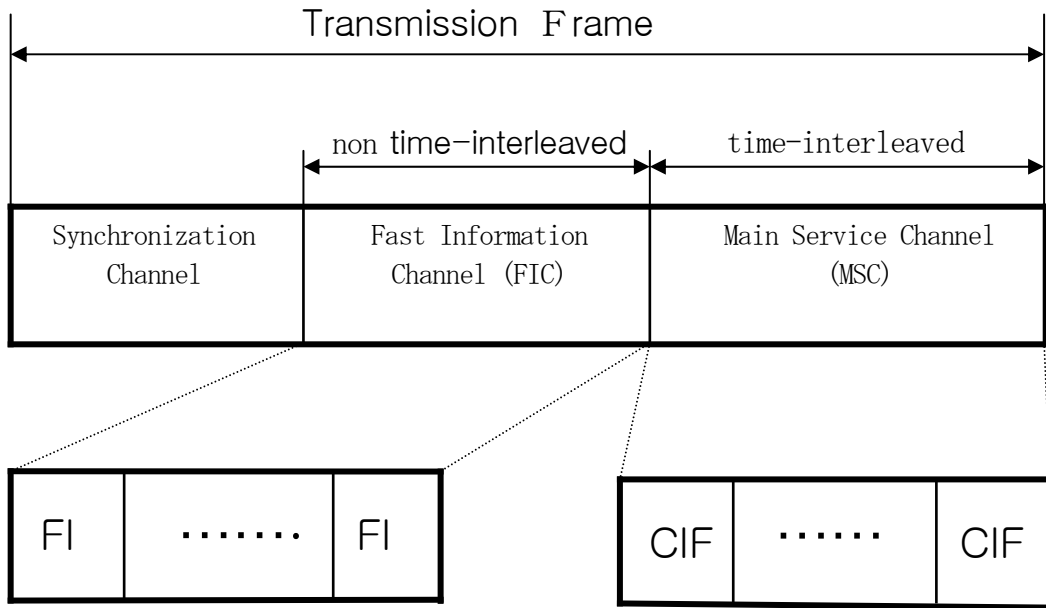


(10) T-DMB 災難放送 標準 内容 (2) (注: 下図の赤丸は、制御信号部分を示す)



(11) T-DMB 災難放送 標準 内容 (3)

◆FIC とMSC の転送モード



Fast Information Blocks

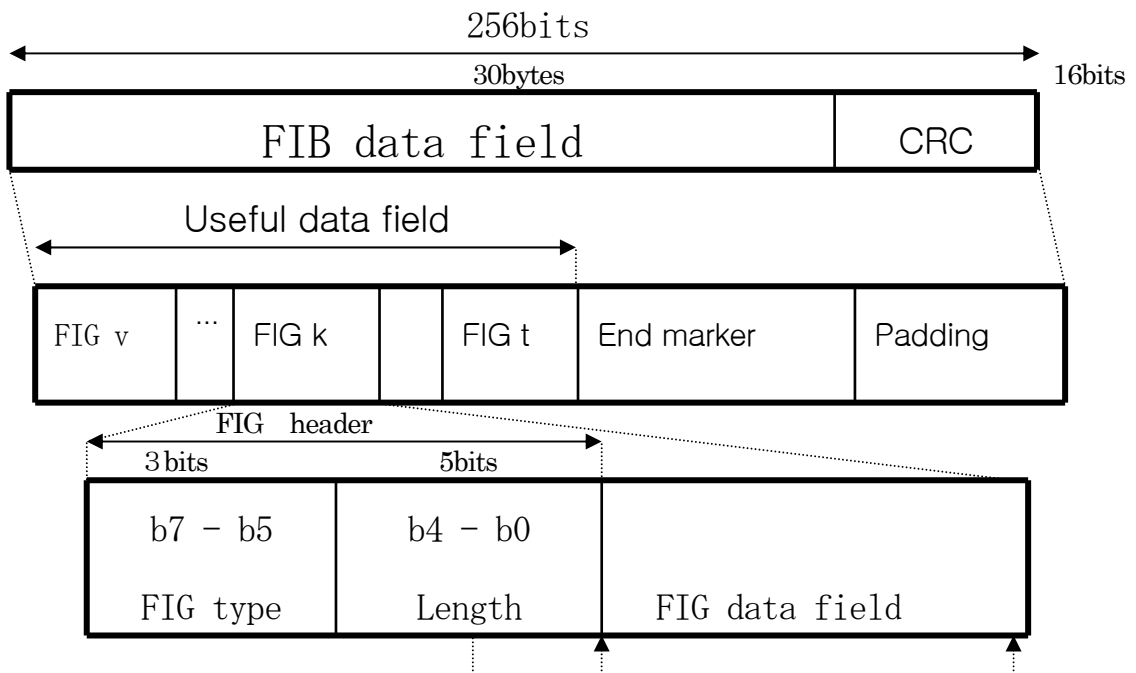
(FIBs)

Common Interleaved Frames

(CIFs)

(12) T-DMB 災難放送 標準 内容 (4)

◆FIC の FIB (Fast Information Block) 構造



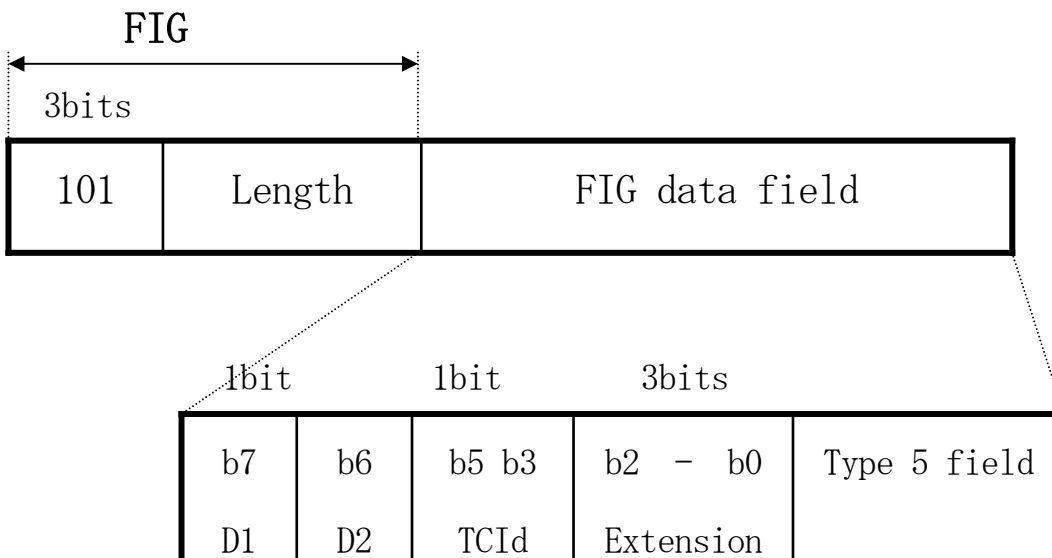
(13) T-DMB 災難放送 標準 内容 (5)

◆FIC チャンネルの FIG Type 5 / Extension 2 使用

FIG type	FIG type	FIG application
0	000	MCI and part of the SI
1	001	Labels, etc. (part of the SI)
2	010	Reserved
3	011	Reserved
4	100	Reserved
5	101	FIC Data Channel (FIDC)
6	110	Conditional Access (CA)
7	111	In House (except for Length 31)

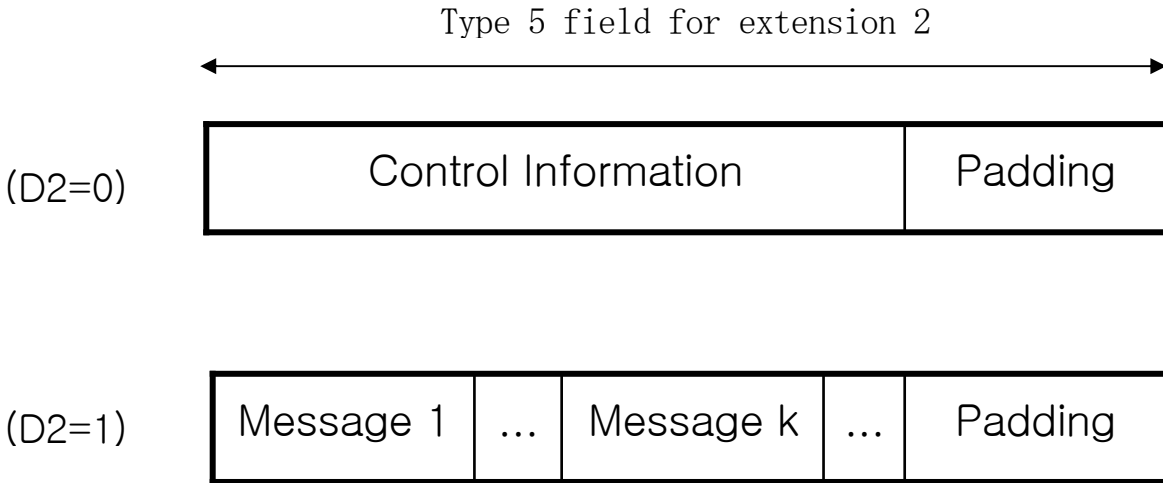
(14) T-DMB 災害放送 標準 内容 (6)

◆FIG type 5 データ フィールド 構造



(15) T-DMB 災難放送 標準 内容 (7)

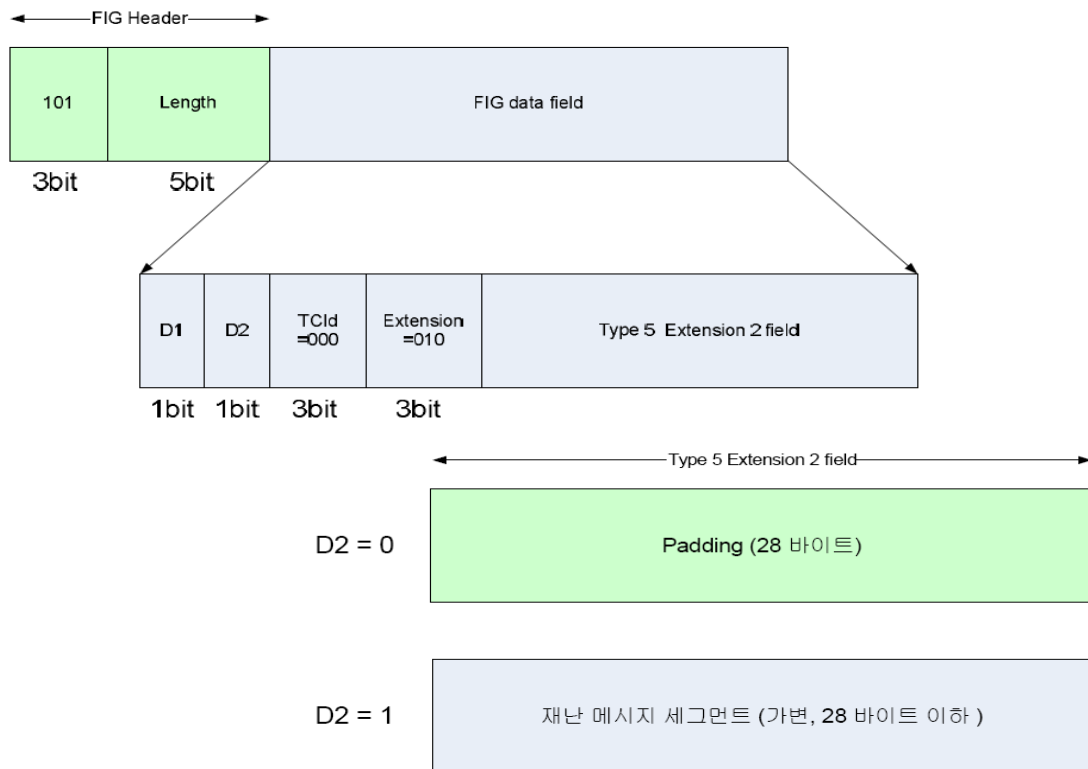
◆EWS フィールド 構造



■ EWS : Emergency Warning System

(16) T-DMB 災難放送 標準 内容 (8)

◆FIG Type 5 および Type 5/2 Field



災難メッセージセグメント (可変、28 バイト 以下)

(17) T-DMB 災難放送 標準 内容 (9)

◆災難メッセージ フォーマット

災難の種類	警報優先	災難発令	災難地域	災難地域	R e	災難地	短文
3bytes	2bits	28bits	3bits	4bits	3bits	가변	가변

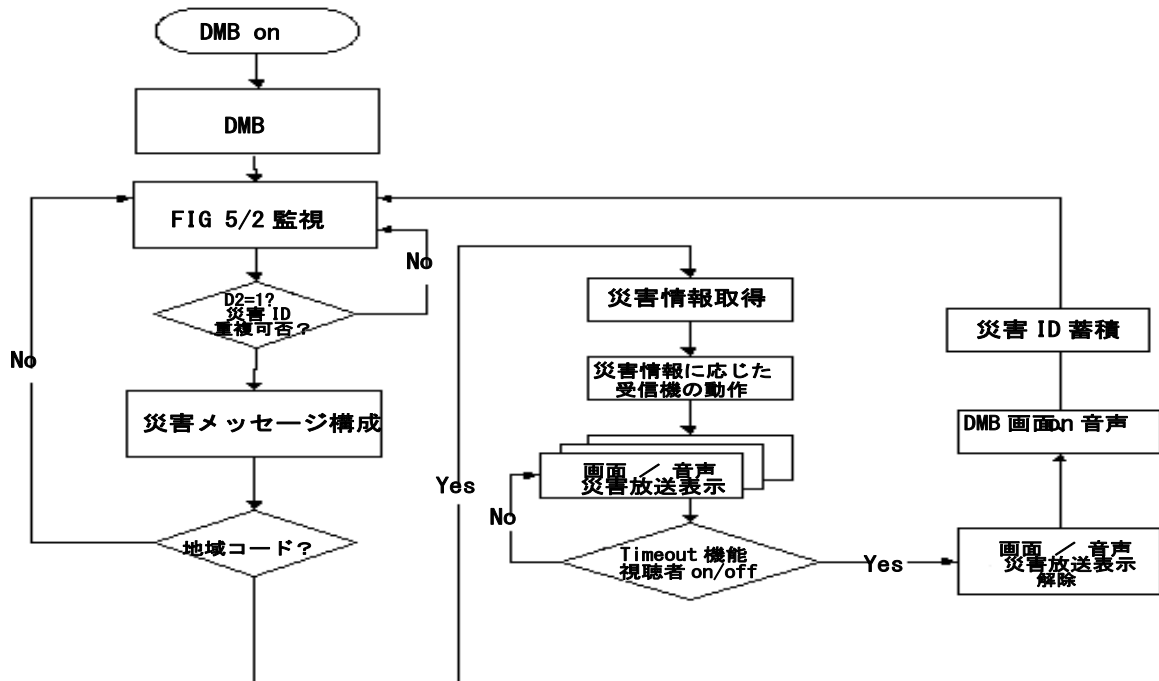
- 災難種類コード：災難発令者が発令した、災難の種類を意味し、災難種類コード略語を表す
- 警報優先順位：災難発令者が、警報の重要度に応じて優先順位を付けて発令する
- 災難発令時間：災難発令者が、災害を発令した日と時間を意味する
[ETS 300 401]の 8.1.3.1で定義された Modified Julian Date (17bits)と UTCコード(short form 11bits)を表す
- 災難地域形式：メッセージに使用される 災難地域コードの種類を定義

(18) T-DMB 災難放送 標準 内容 (10)

- 災難地域数：災難メッセージが受信されるべき 災難地域の個数を意味する
- 災難地域：災難メッセージが受信されるべき地域を意味し、災難地域形式で定義された災難地域コードを意味する
- 短文：文字放送及びリンク情報と同じ付加情報を表示し、リンク情報は“〇〇で開始して……”で終わる。

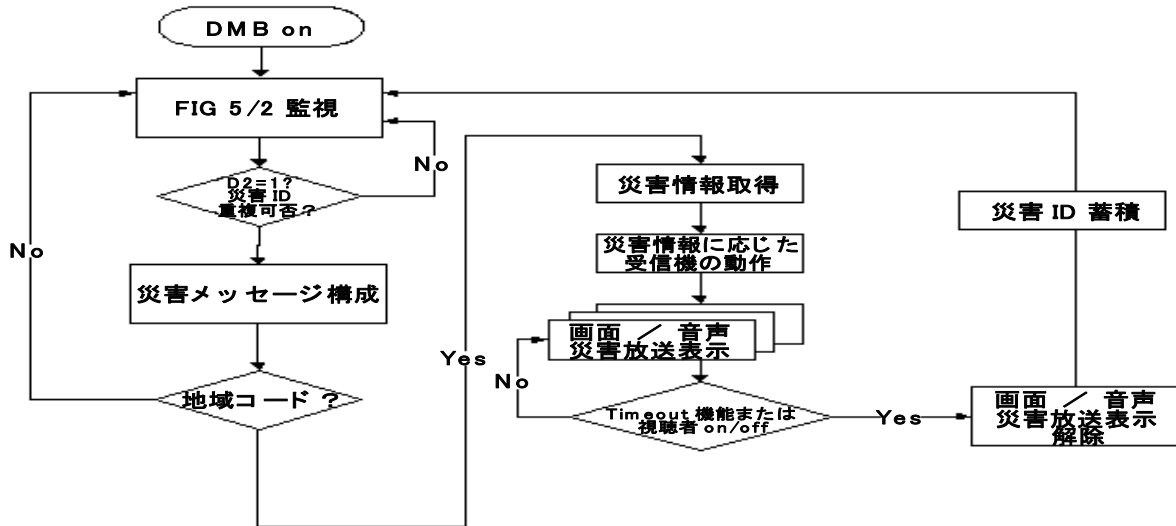
(19) T-DMB 災難放送 標準 内容 (11)

◆サービス シナリオ (一般受信機)



(20) T-DMB 災害放送 標準 内容 (12)

◆サービス シナリオ (専用受信機)



(クオン・テボク氏説明)：受信機のタイプは、一般受信機と専用受信機がありあます。一般受信機は DMB チャンネルが折り込まれていて、そのチャンネルを見ている間だけ災害情報がきけるという仕組みになっている。専用受信機は DMB チャンネルを見ていなくても、災害情報が入ってくればそれをチェックして、それを知らせるとい仕組みになっている。

(21) T-DMB 災難放送 テスト適合性 標準

◆目的：□T-DMB 災難警報放送 受信機が標準に応じて適合できていたかを検証するためのテスト標準を定義。

◆テスト項目：□テスト項目、テスト手順、判定基準

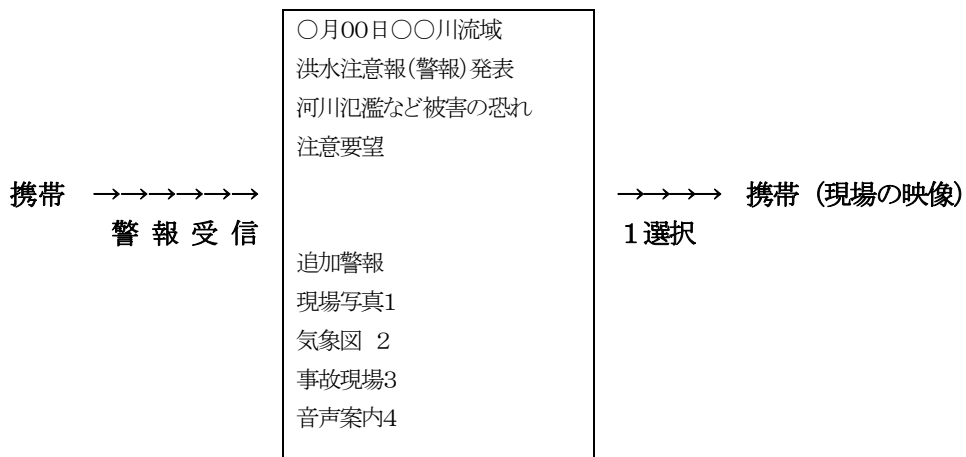
◆テスト領域別 テスト項目 個数

テスト領域	個数	内 容
位置合わせ型サービス	2	位置合わせ型サービスのための要求事項
メッセージ 表示	9	災害メッセージを、受信者に表示するための要求事項
メッセージ 処理	7	メッセージ表示可否のための要求事項
FIG 処理	2	FIG 5/2 処理のための要求事項
FIB 処理	3	FIB 処理のための要求事項
イベント 処理	5	予想できないイベント発生時処理のための要求事項

(22) 서비스 시나리오 例 (1)



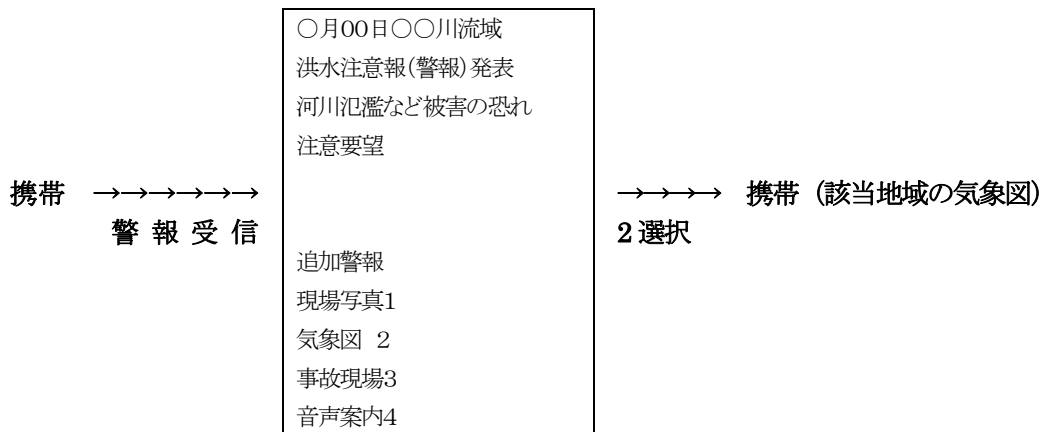
서비스 시나리오 例 (1)



(23) 서비스 시나리오 例 (2)



サービス シナリオ 例 (2)



(24) 送受信整合 テスト (1)

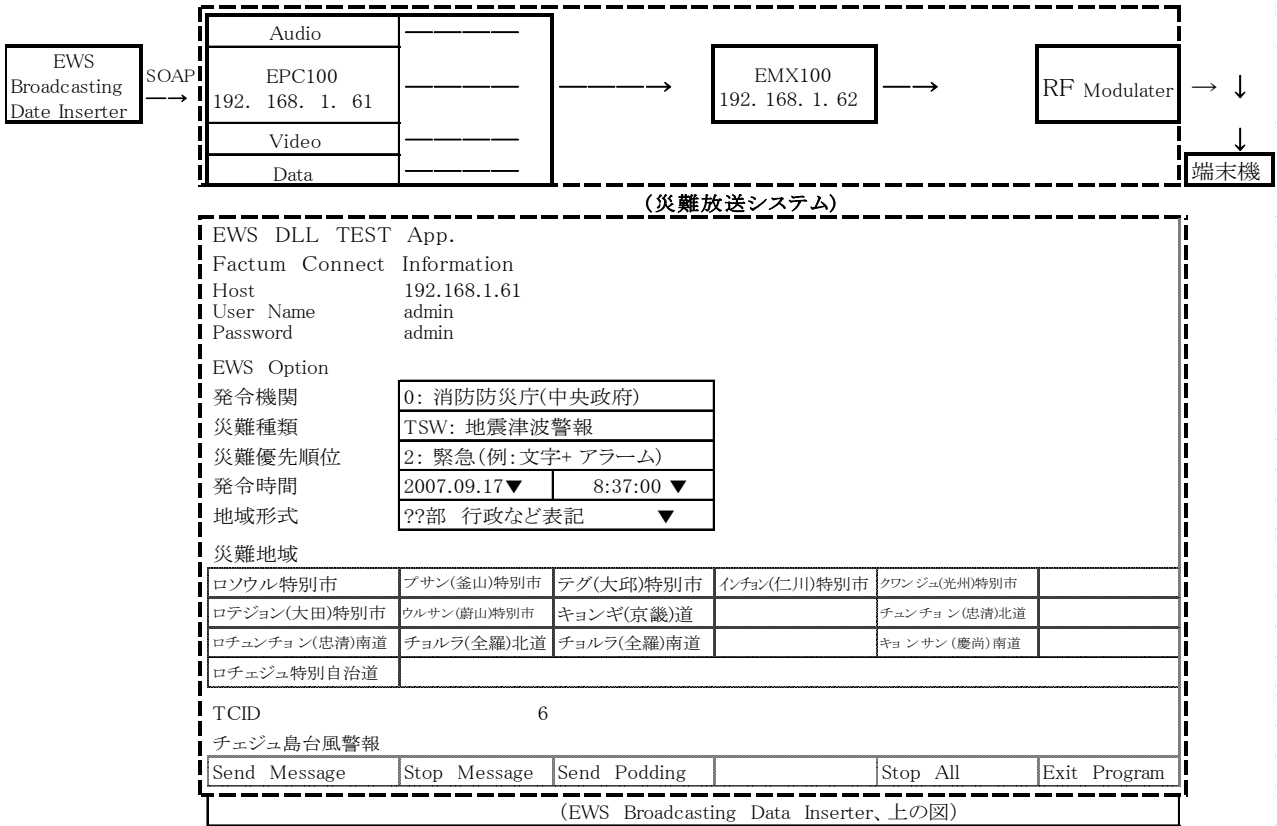
◆テスト ストリーム 生成機画面		災害放送 情報生成機	
			貯蔵 読み込み 取り消し
災害の種類	T SW		
警報優先順位	非常に緊急 (性が高い)		
災害発令時間	2006年8月25日	8時0分	
災害地域形式	大韓民国	政府指定	
災害地域数	2		
災害地域	#1 カンウォン (江原) 道	トンヘ (東海) 市	
	#2 カンウォン (江原) 道	テベク (太白) 市	
短文	トンヘ(東海)市、ソクチョ(東草)市	8月25日8時30分ごろ	大津波予想 高地へ～
メッセージ発令機関	消防防災庁 (中央政府)		



(クオン・テボク氏説明) : 警報が出されたときに送られるデータ内容は、災害タイプ/警報の優先順位は、警報の重要度(警報・注意報・情報)にそって与えたものである/発令日時/災害地域コード/地域数: 受信が必要な地域の数/リンク情報 などである。

(27) 送受信整合 テスト (4)

◆テスト システム 構成

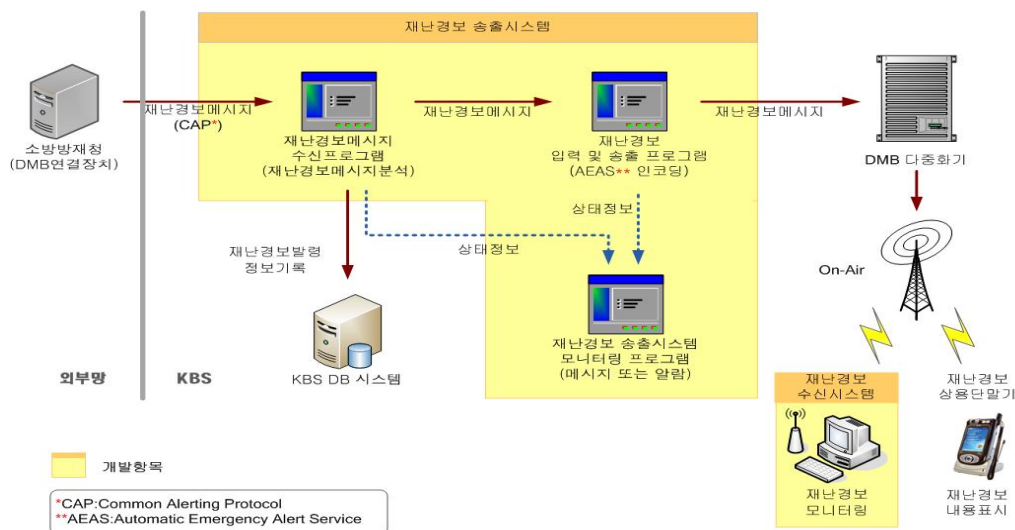


◆テスト結果 (既存 受信機 誤動作の有無)

- 1次: LG 26(個)、サムソン 6(個) モデル 正常動作 (2007. 04. 03)
- 2次: COWON など5社 5(個) モデル 正常動作 (2007. 09. 12)
- 3次: MNBT など13社33(個) モデルテスト4社6(個) モデル 正常 (2007.12.03)
- 4次: 12社 21(個) モデルテスト、19(個)モデル 正常 (2007. 12. 11)

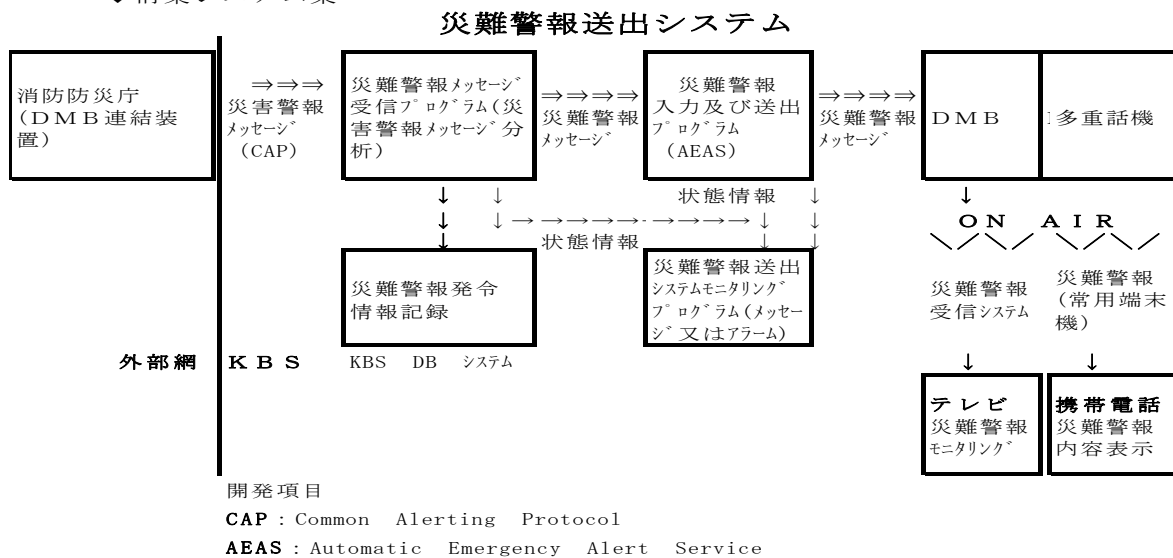
(28) T-DMB 災難放送 送出システム

↓この黄色い着色部分は、2008年の開発目標。



T-DMB 災難放送 送出システム

◆ 構築システム案



(29) 今後の日程

- ◆送受信システムの開発：2008. 4～2008. 9
- ◆情報伝達体系の構築（消防防災庁）：2008. 1～2009. 12
- ◆模範サービス実施：2008. 10～
- ◆活性化のための法的根拠の準備（放送通信委員会）：2008. 1～2008. 12



(クオン・テボク氏説明)：今後のスケジュールなのですが、送受信システムを、2008年は開発しようとしています。今年の10月からはそのテストがはじまります。

(30) 감사합니다. (ありがとうございました)

(註) 資料はKBS(韓国放送公社) 放送技術研究所技術局長 クオン テボク氏提供の『KBS 災難放送現況』を使用しました。引用される場合は、資料名を入れてください。

この資料の収集、翻訳につきましてはNHK放送文化研究所の田中則広氏、塩田雄大氏、本多 葵さん、技術関係につきましてはNHK放送技術研究所の方々、また、KBS資料の翻訳図面の作成につきましても多くの方々にお世話になりました。ここに感謝をこめて申し添えます。

第 部 データ放送およびKBS 担当者との質疑応答

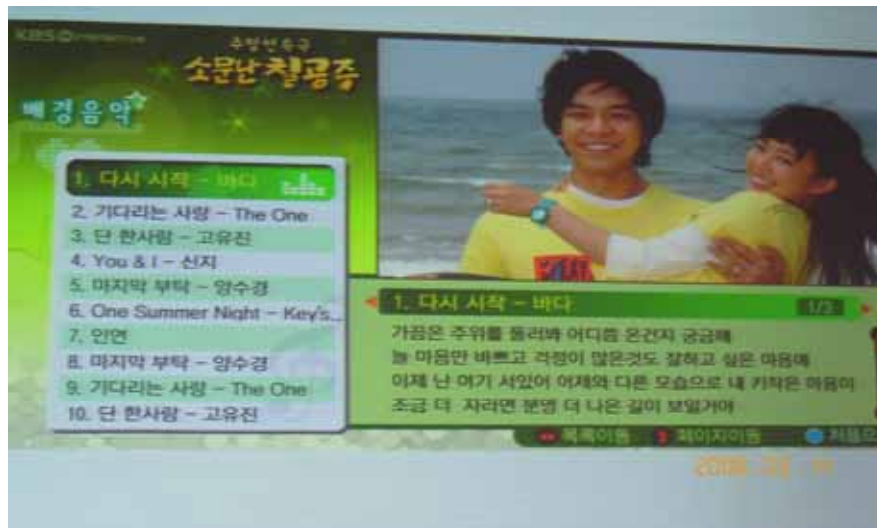
(「地上波 DMB 災難放送」: KBS 放送技術研究所局長 クオン テボク氏のあと、「KBS のデータ放送」「データを使った災難放送」についての説明があった。そのあと、デジタル放送研究会メンバーとKBS の関係者間の質疑応答部分を要約した。)

KBS のデータ放送について

KBS のデータ放送の輪郭ですが、2002 年にスタートさせていただきました。みなさまご存じと思いますが、2002 年にワールドカップの韓国と日本の共催が行われました。それを機会に文字放送がはじまり、データ放送がはじまり、2007 年に本格的放送がスタートしました。

- ・2004 年に T-Commerce (テレビを使った電子取引) の実験をはじめました。
- ・データ放送はケーブルと違いまして、データ独特の形があり、それから付加サービスがあります。
- ・KBS は KBS 1 (ワン) と KBS 2 (ツー) と 2 つのチャンネルがあります。KBS 2 は主に芸能やバラエティなど娯楽ものを流しているチャンネルです。

(図1 KBS2 の画面) 視聴者は知りたい項目をクリックする



- ・こうした画面には、ドラマ主人公の紹介、登場人物についてのコメント、次回予告などあらゆる内容が表示されます。

(図2) 視聴者参加の公開ナム番組風景



視聴者参加番組の典型なのですが、スタジオとのやり取りが可能な双方向が特徴で、リアルタイムで投票を行うこともできます。

- ・このほか、サッカーでは選手の紹介・特徴、ボールの保有率なども、試合の中にみられます。
- ・こうした方法で、欲しい品物の販売で申し込み、お買い物をすることができます。また、番組を観ながらインターネット・モバイルでチケットを買うこともできます。

KBSのデータを使った災難放送について

- ・災難情報はひとめ見て分かることが、第1です。
 - ・画面左に、警報が出るとトリガーが出て、点滅して知らせます。画面の右下には、最新情報がでます。
 - ・全国を地域わけして、情報が出れば発令地域を色分けし、豪雨・強風などの災難情報を伝えます。
- また、天気予報は、全国を77ブロックに分けて伝え、長期予報(1か月分の予報など)、1週間予報、3日間の予報などをだしているので選択できます。

(図3) 災難情報画面 左側に災難情報発令地域の地図・右下に災難情報がでる



<デジ研視察団との質疑応答から>

Q > DMBで、今後細かい災害情報を伝える準備をしているということでしょうか。

A > KBSはNHKと同様に、放送法によって災難放送の基幹放送に指定されていますので、防災庁の主管チームを構成しています。もちろんMBCといった民放も入っているんですけども、開発とかモデル事業をやってきたのはKBSということで、国家機関としての放送機関としての役目を果たしているといえます。NHKがアジアの災難放送に努めているということなのですが、私もその1人として仕事をさせていただいております。災害放送に関しましては、NHKと緊密な関係をもっております。

Q > いままで、ワンセグで受信しているときに電池がもたなくなるということがありましたが、もし実用面で問題があれば教えてほしいのですが・・・

A > 韓国ではバッテリーの問題は、さきほども申し上げましたように専用受信機と一般受信機とに分けましたが、専用受信機は災害に関わるような政府の関係者とかは電源ケーブルを使って常に付けっぱなしにする。一般受信機の場合はバッテリーの消耗を低減させるために、DMBを受信しているときだけ機

能するようにしています。携帯電話のユーザーは、もちろん災害情報は重要ですが、どうしても電波を優先してしまいますので、勝手に「どきどき」してしまうと困ると言われますので、それを解消するために2つに分けました。家電メーカーに聞いてみたところ、これからはバッテリー容量が大きくなるのでそれほど問題ではないだろうということでした。

Q>午前中にCBSの災害情報について話しを聞いたときに、CBSに望むコンテンツ・災害情報は、消防防災庁。ここから提供される、ということでした。DMBを使って災害情報を流す場合ですね、KBSのコンテンツ・制作は多すぎると思うのです。いろいろな素材をよりの確に、かつ効果的にユーザーに伝えるためには、どうゆうような編集をしたらよいのか。どの辺を取り上げて、どれを捨てるかというようなことであると私は思うのです。コンテンツと(情報の)収集、伝達、その辺はどうなっているかをお伺いしたい。

A>災害情報が発生しましたソースは、防災庁からKBSに送られてくるんですね。KBSはそれを受信して送出する、配信する、そういう役割があるんです。そういう場合のコンテンツがありますが、それは現場の状況によってKBSが責任をとることになることもあると思います。その場合、「避難してください」とか、そういうコンテンツについては防災庁の方からデータベースで来ますので、KBSはそのデータベースにリンクを張ってユーザーが利用できるように提供するだけです。こういう方法で進めていく計画です。

(図4) 消防防災庁からの素材を伝えている携帯



しかし、気象情報は気象庁ですのですべてKBSのものとして責任を取らなければならないというわけではありません。(場内スライド)これは洪水注意報ですが、こういう場合の災害情報については、消防防災庁の責任になります。

Q>ユーザーからのリクエストによって様々な情報を引き出すことが出来る。DMBと一般の放送とは同じものですか。

A>DMBは画面のサイズが小さいですので、その画面に合わせて情報がでてくるかもしれませんが、今の段階でコンテンツの効率的な使用ということで、共同で使えるコンテンツのデータベース化という方向で開発が進められています。

Q>音声チャンネル(ch)の質問: 高品質のものを音楽やニュースの放送に使うということで音声chは確保されていますか。

A>音声チャンネルは、2chはラジオ放送です。

Q>これはほかの会社から、権利を借りるということでしょうか。

A>私は担当ではないのでよく分かりませんが、韓国においては国内向けのサービスはビデオ

1ch、オーディオ2chとか規程がありますので、その規程の中でオーディオの2chのコンテンツを貸しているということです。

Q>地域割りして情報を伝えるということですが、日本では郵便番号で配信地域を決めています。韓国では地域を特定して配信するのが目的かどうか。T-Commerce(テレビを使った電子取引)は、KBS自ら行っているのか、どこかと提携して行っているのでしょうか。

A>日本のような広域サービスができるサーバー網を全国に設置しているところです。これが完成すれば、将来は海外情報も提供できるようになると思います。T-CommerceのコンテンツはKBSで制作させていただきました。対象となる品物は、通信販売のホームショッピング会社と提携を組んで提供しました。

Q>データ放送のコンテンツはどうやって利益を得るか。災害情報のコンテンツを作る費用は本体が負担するのか、教えてください。

A>いま、受信機の普及が低いので悩んでいるところです。データ情報につきましては、いろいろな業者と提携を兼ねて共同で利益の配分を考えています。これまでは自腹を切って投資しているという状況です。いまのデータ通信施設は、ソウルで100万世帯くらい。全国で1,800万世帯、そのうちソウル市内で100万世帯です。

Q>デジタル放送のデータ画面と携帯と、同じ画面で送しようとしているのですか。

A>いま販売されているテレビは40インチ以上で、弊社の場合はDMBのために画面の些少(さしょう)を余儀なくされているのが現状なのです。

Q>デジタル放送自体のコンテンツが、日本のデジタル放送のコンテンツと同じかどうか、を聞きたいのですけれども・・・。

A>NHKとテレビ朝日を拝見させていただきましたらば、まったく同じと理解させていただきました。

Q>韓国では2012年にデジタル放送に切り換える、その為の普及は90%ということですが、そこまでいく方法を具体的に教えてください。

A>非常に難しいご質問です。個人としてはなんともできないですね。韓国もデジタル法というのがございまして、9割くらいは普及するだろうとみえています。方法としては、デッドラインを決める。そして受信機の普及率を考えて判断すべきことなのですけれども、でも決定も難しい状況で、普及率90%と言うことも、まだ考えていない状況です。長時間有難うございました(午後6時半前に終了)。

むすび

日本での災害放送で必要な情報伝達は、「地震・津波、台風災害、豪雨による洪水、土砂崩れ、火山噴火、山火事」などの防災、減災のための情報伝達をさしているので、韓国での「災難放送」もほぼ同じ災害をさしていると思っていた。しかし、日本では2007年10月から実施されている「緊急地震速報」を例に、地震に対する備えがどうなっているかを訊いてみると、「韓国では地震はほとんどなく、東海岸では(日本海で発生した地震による)津波の被害はある」という返事であった。

韓国での自然災害とは「台風、洪水、豪雨、暴風、大雪、津波など」をさしている。人的災害は「火災、崩壊、爆発、交通事故、化生放事故(化学、生物、放射能事故)、環境汚染事故」で、災害基本法も2つに別れている。さらに、災害が発生したときの情報は、政府の消防防災庁にデータベースがあり、放送局も移動通信会社が情報を提供しているCBSも、そこにリンクを張るだけで情報を得ることができる。情報の一元化が行われているのが特徴である。

過去の豪雨災害をみると、1998年7月31日～8月2日の前線豪雨で死者・行方不明者凡そ400人、2002年8月31日～9月2日にかけての台風で900^ミの大雨で死者151人、行方不明者33人、被害総額は、5兆1479億ウォン=凡そ5,000億円と推定されている(9月19日の朝鮮日報)。こうした災害に備えて、いかにきめ細かく情報提供するかが、韓国の放送局の課題である。

さらに、KBSのT-DMBで送出される「災難放送の標準内容」(転送 階層 構造図)として技術的な解説があるが、その構造図の中に、「DAB(Eureka-147)」の項目がある。

DAB(Digital Audio Broadcasting)は、Eureka(European Research Coordination Action、欧州先端技術共同体構想)のプロジェクト147で規格化されたデジタルオーディオ放送規格であり、現在、FM/AM放送に代わる放送システムとして世界中で注目を集めている。DAB放送は、欧州を中心にカナダ・シンガポール・オーストラリアなど、すでに世界数十か国で試験放送、または本放送が開始されており、自動車分野を中心に、ホームオーディオなどの市場が出来ている。さらに、最近ではポータブルレシーバなどに拡大する見込みだという(HITACHI: News Release:7/3)。

現在DABを採択している国々では、サービスの活性化を図るため、韓国の地上波DMB導入を真剣に検討している。その結果、韓国のT-DMBのデモ、またはカンファレンス開催を要請され、いままで20回以上のデモが行われている。こうした一連の動きをみると、韓国がDAB方式を採用し開発しているDMBが、欧米で汎用化の方向にあることに驚く。今後、韓国のT-DMBが「災難放送の伝達」だけでなく、メディアとしてどのように国際化していくのであろうか、注目していきたい。